



The World Dictionary
of Wise Saying and
Quotation

K. Kajiyama

Meiji-shoin

*義務とは、法則に対する畏敬に由来する行為の必要性である。——カント「道徳形而上学原論」

*好意が大なれば大なるほど義務も大とならん。——キケロ「断片」

*義務の重荷からわれわれを解放することのできるの、良心的な実行のみである。——ゲーテ「ヴィルヘルム・マイステル」

*果実を食べる者は、少なくとも種子を植え付けるべきだ。——ソロー「語録」

*われわれの義務は、偶然の規則より以外にならぬ規則をも持たないのである。——モンテーニュ「随想録」

*国家の一員としての男子の義務は、国家の維持と進歩と防禦とに助力することであり、女子の義務は、国家の秩序と慰安と装飾とに助力することである。——ラスキン「百合」(講演—一八六八・五)

*義務は人が他人から期待するものだ。——ワイルド「何でもない女」

*必要に応じて義務の固き支持を求むれば、現世にありても、幸いなる道をたどりうるべし。——ワーズワース「義務にあたる領」

*義務とは、各人の持っている権利の比重に反比例して

課せられる税金である。その税金は強者に軽く、弱者に重い。——编者

休日・休息

*休息はよいことであるが、倦怠はその兄弟である。——ウォルテール「放蕩児」

*疑う余地のない純粹の欲びのひとつは、勤勉のあとの休息である。——カント「語録」

*休息が永すぎると、カビが生える。——ウォルター・スコット「婚約者」

*日曜日は週間のあらゆる罪を拭い去る海綿だ、と多くの人々は考えている。——ヘンリー・ビーチャー「人生の思考」

*多過ぎる休息は、少な過ぎる休息と同じく疲労させる。——ヒルティ「眠られぬ夜のために」

*あまり永すぎる休息は苦痛なり。——ホメロス「オデュッセイア」

*怠け者は休息を楽しむことを知らない。そのうちにはげしい労働は身体に休息を与えないのみならず……心に平和をも与えない。——ルボック「人生の悦び」

*日曜日は週間の巻物をいっしょに閉じる金の止め金である。——ロングフェロー「休日」

*倦怠の義兄弟が休息である。——编者

教育・教養↓学問

*教育とは、学校で習ったことをすべて忘れた後に残っているものである。——アインシュタイン「教育について」

*教養は「世界で言われ、考えられた最上のことを知る」ことである。——アーノルド「文学とドグマ」

*いかに示唆するかを知ることは教養の偉大な術である。——アミエル「日記—一八六四・一〇・二七」

*教育は老年の最上の糧食なり。——アリストテレス「断片」

*教養の勝利は国民性を圧倒し去ることである。——エマソン「講演集」

*およそ小児の教養は早くすべし。——貝原益軒「和俗童子訓」

*教育は、人間に課すことのできる最も大きい、むずかしい問題である。——カント「断片」

*標準の線まで昇るいかなる人も、二つの教育を受けた。

第一には教師から、第二にはもつと個人的かつ重要な己れ自身からである。——ギボン「覚書」

*ただわれわれの曖昧で散漫な教育が人間を不確かなものにするのだ。——ゲーテ「ヴィルヘルム・マイステル」

*殷鑑遠からず。(般の人々にとって手本は遠くを求める必要はない。前代の夏の桀王は暴政で自滅した)——「詩経」

*教育は、道徳と知恵の二つの基盤のうえに立たねばならない。前者は美徳を支えるために、後者は他人の悪徳から自己を守るために。前者に重点をおくと、お人好しか殉教者しか生まれぬし、後者に重点をおくと、打算的な利己主義者が生まれる。——ジャン・ポール「格言と反省」

*慈母三遷の教え。——「十八史略」

*子供には批評よりも手本が必要である。——ジュベール「パンセ」

*教育を軽蔑する者が唯一の無学者なり。——シルス「箴言」

*教育の最大の目標は知識ではなくて行動である。——スペンサー「断片」

*教育の目的は性格の形成にある。——スペンサー「社会静力学」